

1 開催日時及び場所

○日時 令和2年2月20日(木) 午後1時30分～午後3時

○場所 大船渡市総合福祉センター 大会議室

2 委員数 22名

3 出席者

○委員 22名

今野美彌子副会長、大和田洋太郎委員、新沼眞作委員、志田安雄委員、菊池貫二委員、新沼良治委員、山下通委員、佐藤次夫委員、新沼秀人委員、今野隆子委員、及川芳子委員、若林美枝子委員、鈴木ミチヨ委員、岩城幸子委員、佐々木敦子委員、渡辺陽子委員、小笠原登志江委員、菊地ゆか委員、金野志津江委員、平山睦子委員、古内裕子委員、熊澤正彦委員(生活福祉部長/地域包括ケア推進室長)

○オブザーバー2名

佐藤マチ子氏(高橋孝嗣委員代理)

木下雄太第1層生活支援コーディネーター

○大船渡市7名

地域包括ケア推進室 7名

次長 佐々木義和、主幹 佐藤かおり(長寿社会課課長補佐)、主幹 鈴木弥生、

主幹 大和田和枝、係長 佐藤由美子、係長 大津泉(長寿社会課係長)、係長 白土美都

4 会議の概要

佐々木次長の司会により、開会。

始めに、本協議会の会長である佐藤勝利様が令和元年8月31日をもって盛地区まちづくり推進員を退任されたこと、新たな会長の選出は次の盛地区まちづくり推進員の就任後に行う旨説明。

続いて、今野副会長あいさつの後、佐々木次長から、委員28名中22名の出席であり、委員の半数以上の出席があることから会議は成立する旨を報告。

議事に入り、ここからは設置要綱第4第3項の規定により、今野副会長が議長となり進行。

始めに、白土係長から以下の(1)(2)(3)、続けて鈴木主幹から(4)(5)の説明を行い質疑並びに意見交換に入った。

(1) 大船渡市地域助け合い協議会等の開催状況について

(2) 大船渡市地域助け合い創出研究会の開催状況について

(3) 大船渡市生活支援コーディネーター等情報連絡会の開催状況について

(4) 各地区における地域助け合い協議会の設置・運営の状況について

(5) 令和2年度大船渡市地域助け合い協議会等の開催計画について

- 質疑並びに意見交換 -

[今野美彌子副会長]

資料4は各地区の1月末現在の状況であるが、これまでの間に何か進んだ地区はないか。吉浜地区はどうか。

[新沼秀人委員]

別紙資料の7ページにある「岩手県における生活支援・外出支援のあり方を考えるシンポジウム」に参加してきた。この中で、講師から社会福祉法人制度の改革があり、社会福祉法人は地域貢献しなければならないという話があった。

吉浜地区内には生鮮食料品を取り扱う店がなく、昨年9月には吉浜地区公民館から市に対し、地域内における公共交通の充実について、要望書を提出していた。

一方、助け合い協議会では、シンポジウムに参加し情報を得たので、吉浜荘の施設長に話をしたところ、前向きな回答を得たところである。

利用者から料金をとらないのだから許可も必要ないだろうと思いつつも、念のため、岩手運輸支局に連絡したところ、支局から仙台、仙台から東京の方に確認をとっていただき、約1か月間、電話やメールのやりとりをした。

12月中旬に「実施してもいいですよ」という回答を得て、1月8日に吉浜荘に対し要望書を提出、昨日、愛生会様と協定書を締結した。

本日発行する協議会だよりで、3月5日まで利用者の募集をすることとしている。吉浜荘で用意する車は7人乗りで、運転手は吉浜荘職員、公募する添乗員ボランティアを1名乗車させる。4月の運行開始に向けて準備していきたいと考えている。

[今野美彌子副会長]

添乗員の保険や利用者の乗車中の事故等についても何か手立てはあるか。

[新沼秀人委員]

乗車中は、吉浜荘の車の保険で対応、添乗員が商業施設に行き、添乗員の責任で事故があった場合は協議会で入る保険で対応する。

[今野美彌子副会長]

他の地域で移動サービスについて、困った場合は指導をお願いしたい。

東北電力と連携した取り組みを行った猪川地区助け合い協議会はどのような状況であったか。

[菊池貫二委員]

高齢になると出来ないことが多くなってくると感じている。どれくらいの需要があるか分からなかったが、2名の生活支援コーディネーターが中心となって、やってもらいたい人をピックアップして、東北電力と社協とでグループを作り、電気設備点検と清掃活動を行った。やってみたら、「ありがたい」と評判は良かった。こういうことは、年に1~2回は必要かなと思ったし、企業の社会貢献もあるが、そのようなことをやる企業が東北電力以外であれば、助け合い協議会なり、色んな団体と連絡をとりながらやれば助かると思う。特定の人がやるとなると負担感が大きいので。

[今野美彌子副会長]

他の地区の皆さんも、うちの地域でやってみようかなという気持ちになっていただければありがたい。

日常生活支援ということで、草取りとか色々あるが、大船渡地区でごみ出し支援を2地域で実施しているが、状況はどうか。

[大和田洋太郎委員]

大船渡地区の支え合い協議会は、地区公民館とは別組織として活動している。私も協議会の会議に参加しているが、ボランティアの募集をしたが、意外と少数であり、ごみ出しの希望者も少数であった。ごみの中には自分の生活が見えるということで、やはり頼みたくないということが

あった。目的は生活支援になってくるわけだが、私達が出来る範囲はなんだろうかということまで考えたわけだが、シルバー人材センターの仕事を取ってもいけない、介護施設が行っている仕事を私達が無料でやってもいけないということを考えると数は限られてくる。片方は営利で、私達は無償または安価でやっているわけですから、その狭間というのをやっておかないと、お互いに持続したものでやれないのではないかということは反省の中である。

[今野美彌子副会長]

有償ボランティアの担い手、やはり担い手不足があると思いますが、日頃市さんではどうか。

日頃市中学校が廃校になるということで、その後の校舎の利用方法について若い方々が集まっているのだが、日頃市地区助け合い協議会の方でそういった動きを説明してほしい。

[山下通委員]

現在2回程ワークショップを開いているが、まだ意見を出すという段階で、まとめはこれからというところ。学校をどのように使うかというのはなかなか難しい所です。

[今野美彌子副会長]

若い方々を集める上で、どういう方を招いて検討会を開いたのか教えていただきたい。

[山下通委員]

地域公民館によっても違うが、地域公民館の主事、女性を必ず一人を入れていただくようにしている。他の町からいらした方もいるので、私の所にはこういうものがあつたのかという気付きもあつた様子。地域にいても覚えきれない、活動に参加していないので分かりませんでしたということも多いです。一緒にやることによって、人の顔も覚え、活動も覚えて、また将来に向けてどういう考え方をしていけばいいかということ。他地域の活動の仕方を参考にしながら意見を出しているような感じです。

[今野美彌子副会長]

担い手養成について、末崎地区で何か会合を持たれたということはないか。

[新沼眞作委員]

末崎ではまだ、そこに至っていない。

基本的には、市民協働準備室から担い手育成について、会議を開いてはどうかとされているが、まちづくりについて云々と言っても容易に人が集まってくるものではないので、むしろ、俗に言う一本釣りのような形で育成するのもいいのではないかと話している。まず芽を出してもらうのは地域でということで地域に重きをおいていくことにしている。全体で担い手をどうしようかというのは、まだ話し合っていない。

[今野美彌子副会長]

陸前高田市で地域お助けサポーター養成講座というものをやっているが、大船渡市では養成講座の予定はないか。

[佐々木地域包括ケア推進室次長]

現時点では、計画しているものはありませんが、他地域の事例をみながら検討したい。

[今野美彌子副会長]

介護予防のために運動を行っている地域はないか。

まちの保健室として、各地域を回っている今野委員さん、11地域でこんなことをすればいいのではないかと、陸前高田市では百歳体操等を行っているが、そういった全体的に広げていくようなものはいかがか。

[今野隆子委員]

私は、けせん・まちの保健室という看護職員や栄養士のボランティアグループに所属している。最初はNPO法人で活動していたが、現在はNPO法人としてではなく活動している。今日の午前中も平山委員の川原アパートに行ってきたが、1か月に1回行っている。今日のテーマは、コロナウィルスで、感染症の基本的な事項の確認、手洗いチェック、笑いヨガ。とても好評で川原アパートのように定期的に行っている所と、お呼びがかかればお邪魔している所とある。テーマは、流行りのものとか、病理的なもの、ピンころ体操等。もし健康教室とか運動とかをやってみたいなという所があれば連絡いただきたい。

[今野美彌子副会長]

川原アパートの皆さんの様子は、いつもフェイスブックで拝見しているが、少し紹介いただきたい。

[平山睦子委員]

活動というより、普段のお茶っこのようにして毎日のように集まっているが、お茶っこのみが防災の第一歩と考えているので、お茶っこのみに来ない人がいたら、調子が悪いのかなとか大丈夫かなとかみんなで心を寄せたり訪ねたり、大したことはないが、そんなことが一番大切なことかなと思っている。たまにはみんなで食事を作り、マジックやら、今日も私がいないうちに、ピアノやバイオリンの演奏会が開かれている。まだ被災地支援ということで来てくれることに感謝している。アパートだけではなく、隣近所の方達にも声をかけている。

[今野美彌子副会長]

シルバー人材センターでは、地域に出向いている活動していることはあるか。

[鈴木ミチヨ委員]

シルバーの会員自体が集まって、料理講習会や体操を行ったりということはあるが、地域に入ってということはない。

[今野美彌子副会長]

講師に来ていただくというようなことはないですね。

[鈴木ミチヨ委員]

はい、ありません。

[今野美彌子副会長]

今後、是非検討をお願いしたい。

市では、サロンに対し、講師の派遣をさせていただいているが、各地域の方にも案内しているか。

[佐藤係長]

こちらで把握しているサロンには、案内している。

来年度からいきいき百歳体操を普及させていきたいと考えているので、そのお知らせも含めて来月10日に運営者交流会を開催する予定である。また、講師派遣事業ということで、健康や運動、食生活の講習等、色々なメニューがあるが、それらを企画させていただいている。

[今野美彌子副会長]

勝久会の渡辺委員、施設に地域の方々を招いてのサロンや会場の貸し出し等があれば教えてほしい。

[渡辺陽子委員]

夏まつりや敬老会の際には、地域の方々に来ていただき、余興をさせていただいている。地域の方々

の活動の場ということでお声がけいただければありがたい。

数年前まで、住民の皆さんに来ていただいて施設のマシーンを使ってリハビリしていただいていたが、その方達も自立ということで、今は、総合福祉センターを会場に活動している「気楽会」という団体がある。そこに、こちらの職員が出向いて、指導や相談を行っている。医療法人で社会貢献は難しいが、健康教室等と呼んでいただいて、ミニ講座を行うとか、リハビリテーションセンターも行っているので、リハビリのことで相談があれば個別に対応できると思う。

[今野美彌子副会長]

蔵ハウスの小笠原委員はどうか。

[小笠原登志江委員]

成仁会では、日頃市、盛、立根と事業所がある。日頃市町ではそれぞれ地域の方に利用者さんを呼んでいただいて、本当に楽しんでいるようだ。立根町の百年の里では地域公民館に出向いて介護教室の講師として派遣依頼を受けている。蔵ハウスでは、色々な方々に来ていただいているが、一昨年からは盛町の市日に出向き、「簡単福祉相談所」を開いている。特に大きな相談はないが、話し相手が欲しい方が多く、リピーターが多い。手相をみてほしいとか、みそ汁を作る際の煮干しから出汁をとる方法を教えてほしいとか様々。これは、法人全体で取り組んでいくことにしていて、今後も続けていく予定である。

[今野美彌子副会長]

認知症の方への対応や見守りについて、金野委員からお願いしたい。

[金野志津江委員]

認知症に関しては、母を10年近く介護し、施設でお世話になった。その恩返しではないが、認知症の人と家族の会に入って、手伝いをしている。その会は、認知症の方、介護している家族が来て、共に自分の苦労話や介護の話話し合ったり、気分転換にちょっとしたレクを行ったりしている。

その中には介護のプロも来ているので、相談に乗っていただいたり、介護者の方達の失敗談を話したり、一か月に一回の集まりが自分を開放させてくれる場所ということで、楽しみに来てくれる方もいて、夫や妻の介護を終えた後でも通ってきてくれる方がいる。

また、長谷堂地域では、月に一回サロンを開催しているが、70歳程の元気な人達は、「なんでまたやらかなきゃらないの、面倒くさいな」と言う方もいるが、「でもね、今、私達の先輩達をお世話していることは若い人達が必ず見ている、それが順繰りで後継者が出来たら、私達が安心して地域で歳をとれるよね」って話している。企画する段階では大変だなると思うが、久しぶりに集まると、皆元気で、男性はカラオケをしたり、女性はごちそうづくりをしたりして、300円の会費で赤字をしないで継続して出来ている。

サロンの開催が目的ではなくて、皆が集まって情報が出てきて、最終的には助け合いにつながるのかなと思っている。マップづくりも大事だが、少しずつ細かい糸を手繰り寄せていけばいいのかなと思っている。

[今野美彌子副会長]

最後まで尊厳を持って心豊かに生きていける社会づくりですね。お店でサロンを開催している古内委員いかがですか。

[古内裕子委員]

私の店は盛町の商店街にあり、津波の被害からは逃れて、お客さんに洗濯機や携帯電話、かみそ

りを使っていただくことをしていた。おにぎりやカップラーメン等の食べ物を提供したことから始まり、次第に、料理教室等、店の中で出来る催し物をするようになった。被災した方々が沢山集まってきたが、最初の頃は、被災したことや自分のつらかったことを話すような場だったが、月日が経つにつれて、笑い声があふれるような、ここに来ると気が紛れるというような場になっていった。

店のお客さんとは関係なく、友達を誘ってくれる方が多く、今は 40 人程の方々が来ます。地域公民館に集まることはいいことだが、盛町の商店街は、色々な所から集まりやすい所だと思うので、私の店だけではなく、他の店でもそのようなものが出来ればいいなと思っている。

[今野美彌子副会長]

マイヤやデイリーポート等でも、店の奥に休むことの出来るスペースもあるが、そういった所の地図でもあればいいなと思います。木下コーディネーターいかがでしょうか。

[木下第 1 層生活支援コーディネーター]

何か活動を行う時に、地域の中にいる高齢者のためにというと、すぐくぼやけてしまうので、誰のために何が出来るかを考えたりすれば、本当に必要とされる活動が出来るのではないかと思うし、一つの地域でやってみて上手くいったことが、他の地域で出来ないかということも考えられると思う。

[今野美彌子副会長]

各地区の助け合い協議会が、一歩でも二歩でも前に進めるように皆様のご協力をお願いします。